

殺菌剤  
バリダマイシン液剤

# バリダシン<sup>®</sup>液剤5

農林水産省登録 第17386号  
(住友化学(株)登録)

性状：緑色透明液体  
毒性：普通物（毒物及び劇物に該当しないものを指していう通称）  
危険物：非該当  
有効年限：5年  
包装：500ml×20

有効成分：バリダマイシンA・・・5.0%

殺菌剤分類 **U13**

バリダシン<sup>®</sup>は住友化学(株)の登録商標です。

## 特長

- 有効成分バリダマイシンAは病原菌がエネルギー源とするトレハロースの分解酵素（トレハラゼ）の働きを阻害し、リゾクトニア病害および細菌性病害に効果を示します。
- ユニークな作用機構で、薬剤感受性低下の心配がほとんどなく、他剤に感受性の低下した菌にも効果を示します。
- 適用作物への汚れの心配がほとんどありません。

## 適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数
もも	せん孔細菌病	500倍	200～700 ℓ /10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
かんきつ うめ	かいよう病	500倍	200～700 ℓ /10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
すもも	黒斑病	500倍	200～700 ℓ /10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) (褐色菌核病菌) (褐色紋枯病菌) もみ枯細菌病	1000倍	60～150 ℓ /10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	6回以内 (育苗箱灌注は 1回以内、本田では 5回以内)
	紋枯病	300倍	25 ℓ /10a				
稲(箱育苗)	苗立枯病 (白絹病菌) (リゾクトニア菌)	1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り希釈液 500ml	は種時～発病初期	1回	灌注	6回以内 (育苗箱灌注は 1回以内、本田では 5回以内)
こんにゃく	白絹病	500倍	1000～3000 ℓ /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	葉枯病 腐敗病		100～300 ℓ /10a				
さといも	茎腐病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ばれいしょ	黒あざ病	200倍	—	貯蔵前又は 植付前	1回	瞬時～10分間 種いも浸漬	7回以内 (種いもへの処理は 1回以内、 植付後は6回以内)
			種いも100kg当り 2.5～3ℓ			種いも散布	
	10倍	種いも100kg当り 200～300ml	植付前	6回以内	散布		
	青枯病 軟腐病	500倍	100～300 ℓ /10a		収穫3日前まで	無人航空機 による散布	
軟腐病	8倍	1.6 ℓ /10a					
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	800倍	3 ℓ /㎡	は種直後	1回	灌注	1回
キャベツ	株腐病 黒腐病 軟腐病	800倍	100～300 ℓ /10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
なす	青枯病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫前日まで	10回以内	散布	10回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	黒腐病 軟腐病	500～ 800倍	100～300 ℓ /10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
チンゲンサイ	黒斑細菌病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌) 軟腐病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫7日前 まで	4回以内	散布	4回以内
たまねぎ	軟腐病 腐敗病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫3日前 まで	5回以内	散布	5回以内
	軟腐病	8倍	1.6 ℓ /10a			無人航空機 による散布	
レタス	すそ枯病 腐敗病 軟腐病	800倍	100～300 ℓ /10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
非結球レタス	すそ枯病 腐敗病 軟腐病	800倍	100～300 ℓ /10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内
ほうれんそう	株腐病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
未成熟とうもろこし	紋枯病	1000倍	100～300 ℓ /10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
しょうが	紋枯病	800倍	100～300 ℓ /10a	収穫14日前 まで	4回以内	散布	4回以内
セルリー	軟腐病	800倍	100～300 ℓ /10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
みつば	立枯病	800倍	100～300 ℓ /10a	育苗期	1回	散布	4回以内 (育苗期は1回以内、 移植後は3回以内)
				移植後 但し 収穫7日前まで、 伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	3回以内		
にんにく	春腐病	800倍	100～300 ℓ /10a	収穫3日前 まで	5回以内	散布	5回以内
ふき	白絹病	800倍	3 ℓ /㎡	収穫7日前 まで	5回以内	灌注	5回以内 (種茎浸漬は 1回以内)
			—	植付時	1回	30分間 種茎浸漬	
ふき(ふきのとう)	白絹病	800倍	—	植付時	1回	30分間 種茎浸漬	6回以内 (種茎浸漬は1回以内、 灌注は5回以内)
			3 ℓ /㎡	収穫30日前 まで	5回以内	灌注	
にら	葉腐病 白絹病	800倍	100～300 ℓ /10a	刈揃え前まで	3回以内	散布	3回以内
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400倍	3～6 ℓ /㎡	育苗中期	1回	灌注	1回
だいず	葉焼病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
		4倍	0.8 ℓ /10a			無人航空機 による散布	
えだまめ	葉焼病	500倍	100～300 ℓ /10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400倍	6 ℓ / m <sup>2</sup>	は種時	1回	灌注	3回以内 (は種時までの 処理は1回以内、 は種後は2回以内)
	軟腐病	500倍	100~300 ℓ / 10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	
	白絹病					株元散布	
	軟腐病	8倍	1.6 ℓ / 10a	無人航空機 による散布			
いちご	角斑細菌病 芽枯病	1000倍	100~300 ℓ / 10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
茶	赤焼病	500倍	200~400 ℓ / 10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
はばたん	黒腐病	800倍	100~300 ℓ / 10a	発病初期	8回以内	散布	8回以内
西洋芝 (ペントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	1000倍	1 ℓ / m <sup>2</sup>	発病初期	8回以内	散布	8回以内
		500倍	0.5~1 ℓ / m <sup>2</sup>				
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ)	500倍	0.5~1 ℓ / m <sup>2</sup>	発病初期	8回以内	散布	8回以内

#### 使用上の注意事項

- ボルドー液との混用はさけてください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ってください。
  - ①散布は各散布機種種の散布基準に従って実施してください。
  - ②散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
  - ③散布中、薬液の漏れおよび詰まりのないように機体の散布配管、ノズルその他散布装置の十分な点検を行ってください。
  - ④散布薬液の飛散によって自動車やカートの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
  - ⑤散布終了後は次の事項を守ってください。
    - a 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
    - b 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効ですが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので注意してください。
- なす、ばれいしょの青枯病に使用する場合、本病の多発するほ場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をしてください。
- ばれいしょの軟腐病に対しては効果が劣る場合があるので、他剤と輪番使用をすとより有効です。
- うめ、かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合があるので、他剤と輪番使用をすとより有効です。
- 本剤をレタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意してください。
- だいごんの軟腐病が多発するような条件では本剤はやや効果が劣る場合があるので、なるべく早めの散布をし、他剤との輪番使用をすとより有効です。
- ばれいしょの種いもに使用する場合は下記の注意を守ってください。
  - 切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行ってください。
  - 種いも散布の場合は、種いもを床などに掛け、全体が均一にぬれるよう散布してください。
  - 処理した種いもはよく風乾してから植付けてください。
- ふき及びふき（ふきのとう）に使用する場合は、種茎浸漬処理と植付後の灌注を組合わせて使用してください。
- こんにゃくの白絹病に使用する場合は、地際部に薬液が到達するように、ほ場全体に散布してください。
- 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用してください。
- トマト、きく（秀芳の力等）には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。  
なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

#### 安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
- 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 処理した種いもは食料や動物飼料として用いないでください。

#### 水産動植物に係る注意事項

- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

#### 保管に関する注意事項

- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管してください。